

# 第一工科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 令和6年度 自己点検・評価結果(1/2)

評価日時：2025年3月11日

会議名称：第12回教務委員会

開催場所：第一工科大学

目的：第一工科大学数理・データ・サイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）の令和6年度の自己点検・評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	自己評価	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
プログラムの履修・修得状況	C	令和4年度より、全学科に対し応用基礎レベル相当の科目を追加展開し、教務委員会において単位の履修状況および単位取得状況を確認している。データサイエンス入門Ⅰで2学科の受講者が0となり、昨年度と比べ履修者が減少してしまった。時間割上は他の授業は重なっていなかったが、時間割上にない学科による学生拘束があり受講できなかつたとのこと。そのような事態が2度と起こらぬよう、各学科との調整を密に行い対処する。
学修成果	B	今年度は上記データサイエンス入門Ⅰで履修者数は減少したが、履修者が少ない分手厚い個別指導は出来、平均の学習成果は上がった。履修者数が増えても学生一人あたりの学修成果が下がらないよう、来年度は補助教員を増員し、教育体制の強化を実施する。全体としても、履修者は出席不足者を除き概ね、AIデータサイエンティストになるために必要な知識、そしてそれらを実現するためのプログラミング技能を順調に会得している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	B	科目によって多少ばらつきはあるが、成績・アンケート共に、出席不足の学生以外は概ね予定の範疇内の理解度に達している。次年度以降より向上するようアンケート結果等を分析・改善していく。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	B	毎学期学生アンケートをとり、そのアンケート結果をもとに授業改善計画を立てることにより、後輩等他の学生への推奨度も高い水準に達しているが、運動部以外は学生の縦の繋がりがほぼなく、後輩等他学生へ推奨が伝わり難い状態の軽減解消も進めていきたい。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	C	今年度は履修者数、履修率が下がってしまったが、来年度は該当科目を「選択」から「選択推奨」科目に格上げ、かつ学期はじめのオリエンテーションでの周知強化を行い、履修計画進捗の遅れを取り戻す。

A：自己点検・評価の視点を上回る成果を達成できた。

B：自己点検・評価の視点の通り、成果を達成できた。

C：自己点検・評価の視点の通りの成果を達成できなかつたが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

D：自己点検・評価の視点の水準まで成果を達成できなかつた。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。

# 第一工科大学

## 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

### 令和6年度 自己点検・評価結果(2/2)

評価日時：2025年3月11日

会議名称：第12回教務委員会

開催場所：第一工科大学

目的：第一工科大学数理・データ・サイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）の令和6年度の自己点検・評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	自己評価	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	B	今年度はリテラシーレベル初年度の学生が卒業の年となった。初年度は修了者が少なく、前年度までとの有意差は統計的に評価することはできないが、就職先を見る限りではDS・AI系企業への就職も多い。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	C	学外からも教育プログラム内容・手法等への意見が伺えるよう調整を進めている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	B	データサイエンス・AIは日進月歩の分野のため、単位を取れた後も自らアンテナを張って最新情報を収集・理解し続けることが重要である。課題では自ら調べ考える課題を多くすることにより、今後も自ら学び続けられるよう調べ方を身に着けさせ、自ら学ぶ楽しさを体験させるとともに自主的な学びの姿勢をはぐくませている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	B	提出課題や試験の出来や学生アンケートもをもとに、適宜学習内容や配布資料、課題を見直し、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業としていく。

A：自己点検・評価の視点を上回る成果を達成できた。

B：自己点検・評価の視点の通り、成果を達成できた。

C：自己点検・評価の視点の通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

D：自己点検・評価の視点の水準まで成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。